

(報告書様式C)

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 愛知県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	豊田市立衣丘小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	2	2	1	16	23
児童数	88	96	89	80	70	76	1	500	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人が実りを感じる学校
- 学力向上を目指して -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・算数

児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。

一人一人が「できた」「分かった」という自己評価を出しやすいため。

一年一年の学習内容の積み重ねが、大変重要であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	テーマ	一人一人が実りを感じる学校 (学力向上を目指して)	
	研究の見通し	《学習における基礎・基本》 ・読み、書き、計算の力 ・学習の構え ・学習の仕方	学習意欲 上の 《算数科の授業改善》 ・一人一人がよく考える授業 ・一人一人がよく活動する授業 ・少人数指導を取り入れた授業
		・自分で考える子・学習を進める子・学び合う子	
		一人一人の学力向上	
	研究の内容・方法		
	1 算数科の授業改善に向けて	みのりを助ける部会	
	・指導計画の作成と考察の累積 ・意欲を高めるための授業づくり		
	2 読み、書き、計算の定着に向けて	幹を伸ばす部会	
	・衣丘タイムの活用(8:45~9:00) ・実施内容の累積と評価		
	3 学習習慣作りに向けて	根っこを育てる部会	
	・家庭学習への取組 ・環境整備 ・基本的な生活習慣づくり		

平成 16 年 度	<p>テーマ 一人一人が実りを感じ、意欲的に学ぶ子どもの育成 - 豊かさ確かさのある算数科の学習を通して -</p> <p>研究の見通し</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD A[算数科の授業づくり] --> D[学習意欲の向上] B[基礎づくり] --> D C[学習習慣づくり] --> D D --> E[一人一人の学力向上] </pre> </div>
	<p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 算数科の授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと教師と教材、それぞれの「かかわりの質や深さ」を研究する。 ・少人数指導の良さが生きてくる、授業形態を考える。 ・子どもの目標と結果を確認できる評価のあり方を考える。 2 基礎づくり <ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数の基礎基本を定着させる衣丘タイムの工夫をする。 3 学習習慣づくり <ul style="list-style-type: none"> ・学校での学習と家庭学習を連動させるための取組を進める。 ・学習への意欲を高められるような環境整備を行う。

(3) 研究推進体制

フロンティア研究推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> — みのりを助ける部会（算数授業研究） — 幹を伸ばす部会（学習の基礎・基本） — 根っこを育てる部会（学習環境の整備）
<ol style="list-style-type: none"> 1 共通理解に向けて配慮した点 <ul style="list-style-type: none"> ・各部会の取組内容が全体に伝わるように、話し合いの前後に学年会を開く配慮をした。また、内容を記録に残すようにし、教師自身の実践の積み重ねを大切にしてきた。 ・授業の力をつけるのは、教材研究での話し合いだととらえ、学年部による体制をとった。また、みのりを助ける部会のメンバーも随時加わるようにした。 2 研究の方向を探るために留意した点 <ul style="list-style-type: none"> ・学年単位で実践を重ねながら課題や問題点を洗い出し、それを各部会での課題として検討するようにした。 ・先進校の報告会や書籍等で学習を重ね、その都度、本校の実態に合わせた取り組み方を検討するようにした。 	

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

意欲的に考え始めた子ども

(アンケート結果から)

学習に対する意欲は変わりましたか	低学年%	中学年%	高学年%
とてもやる気が出てきた	47.7	51.5	26.3
少しやる気が出てきた	26.1	31.2	35.5
変わらない	15.8	14.8	37.3
その他	10.4	2.5	0.9

少人数指導による変容

(アンケート結果から)

できるようになったことは、ありますか	低学年%	中学年%	高学年%
テストの点数が取れるようになった	47.9	64.4	24.5
人の話を集中して聞けるようになった	39.8	50.9	34.5
基本的な計算や書く力がついた	47.7	63.4	30.9
考える力がついた	42.5	70.7	41.7

(四月当初、算数が分からないと言っていた子の授業感想カードから)

2学期になって、きらいだった算数がおもしろくなってきました。なぜかという
と、『はてなボックス』の中から問題が出てきて、答えを早く出したいくなるか
らです。先生にも分からないところを聞くようになってきました。やる気があれ
ば、できるようになるんだなと気がつきました。

2. 今後の課題

教師の授業力の向上

- ・課題にあった教材の発掘に向けて、教師一人一人が持っている知恵を出し合い
これを生かした課題を考える。
- ・式を書きたくなる、問題を解きたくなる、そんな導入のあり方を求めて研究
を進める。
- ・子どもをとらえる目を鍛えるための授業研究を進める。
- ・学習の目標と結果を確認できる評価のあり方の研究を進める。
衣丘タイムの充実
- ・ねらいを明確にし、学年ごとの教科の系統性を考慮した内容の検討を進める。
- ・効果的な学習サイクルを検討し、実践する。
- ・年間計画を作成する。
研究組織の見直しを図る。

学力等把握のための学校としての取組

実態調査

○学習に対する意識調査（児童対象）

- ・教科の好き嫌いの度合いや内容の好き嫌いについて、アンケート形式で実施。
- ・時期は、9月・11月の2回

○少人数指導に対する調査（保護者・児童対象）

- ・少人数授業についての保護者の意識を把握するために、アンケートを実施。
- ・少人数授業についての子どもの受け止め方を把握するために実施。
- ・時期は、9月に1回

学力調査

○教研式到達度テスト

- ・教科学力を把握し、その結果を指導改善に生かすことが目的で実施。
- ・1年・2年（国語・算数）
- ・3年・4年（国語・算数・理科）
- ・5年・6年（国語・社会・算数・理科）
- ・全校一斉で2月に実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○保護者への説明会（フロンティアスクールについて）

- ・PTA総会 4月25日 10時～11時（本校体育館）
- ・入学説明会 2月12日 14時～14時30分（本校体育館）

○研究成果普及に向けてHPを準備中

○フロンティアティーチャーの活動実績

- ・国内研修 10月27日～30日
東京都文京区誠之小学校・筑波大学附属小学校にて研修
- ・国内研修の報告会を開く。
- ・筑波大学附属小学校教官 坪田耕三先生を招へいして、研修会を開く。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無